

“地域のことは地域で考えよう”

〒900-0013 那覇市牧志1丁目3番45号 3階 電話 (098) 869-8711
2025年3月27日

各 位

株式会社 おきぎん 経済研究所

「第99回おきぎん企業動向調査」
(2025年1-3月期) 調査結果

※ お気づきの点、不明な点などがございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

・担当：新垣

問い合わせ先：(電話：098-869-8711 ファクシミリ：098-869-2200

メール：oei-corp@okinawa-bank.co.jp)

現場主義とお客さまからの信頼

第99回おきぎん企業動向調査（2025年1-3月期）調査結果

～県内（地域・業種別）の経営環境と業況感～

I. 調査概要

- 本調査では各企業の業況感や経営状況項目などについて、企業経営者の主な判断(当期実績、来期見通し)を景気動向指数 DI として取りまとめる四半期調査です。

【調査時期】	2025年2月下旬～3月中旬
【調査対象】	県内企業 269 社回答
【調査方法】	WEB アンケート調査
【調査内容】	①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い ⑦雇用 ⑧設備・その他投資需要

—おきぎんDIとは—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変(変わらない)」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、各割合を表したものです(本レポートでは「悪化・低下・減少」はマイナス表示を使用)。

雇用に関しては、「過剰・適正・不足」でお答えいただき、「不足」はマイナス表示を使用。

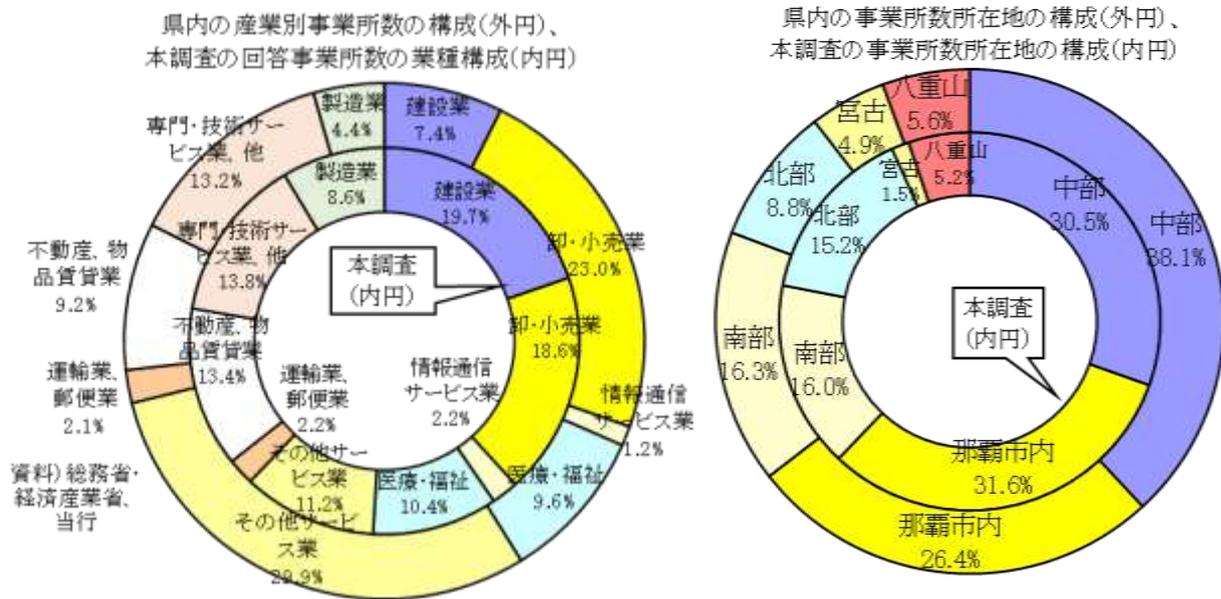
①「好転・上昇・増加」+「不変(変わらない)」+「悪化・低下・減少」=100%

②DI(景気動向指数) = 「好転・上昇・増加」の割合(%) - 「悪化・低下・減少」の割合(%)

従って、DIがプラスなら景気が良い(または上昇見込み)、マイナスなら悪い(または下降見込み)、と捉えます。

➤ 調査対象企業の業種・所在地構成

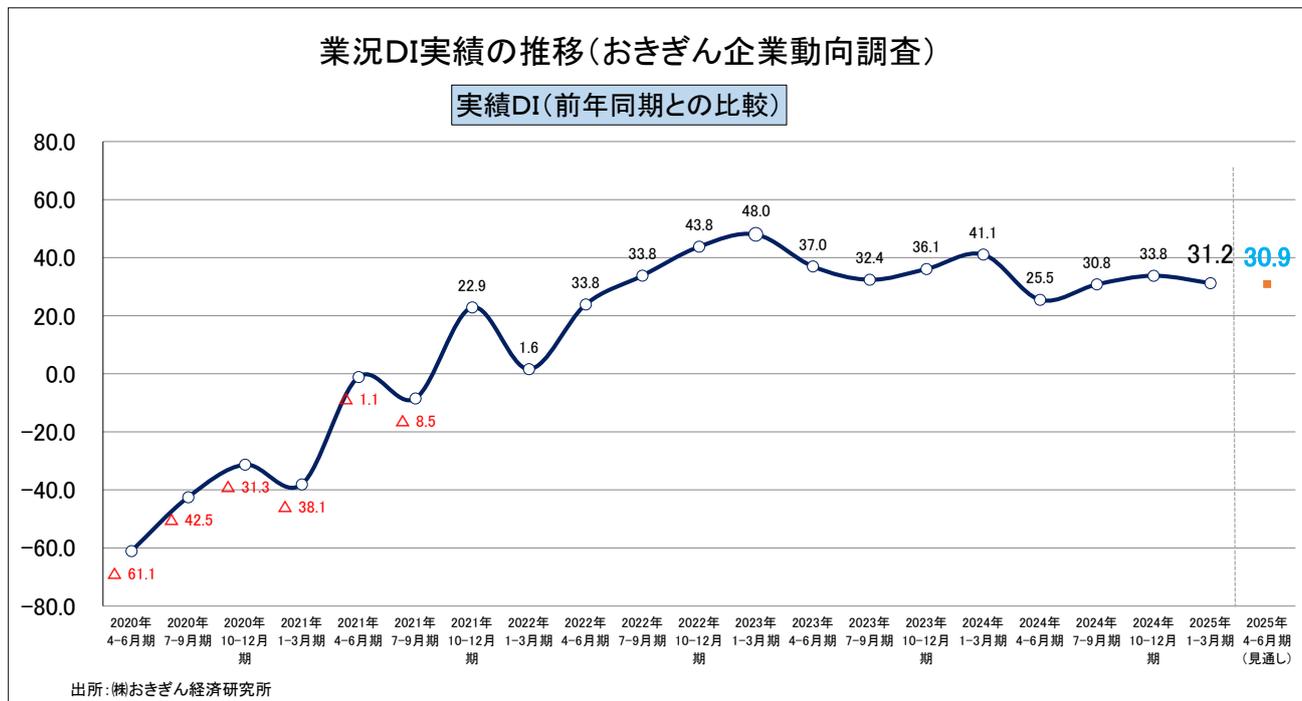
本調査の業種構成を県内事業所データ(令和3年経済センサス活動調査)と比べると、【建設業(本調査では土木・建築業)】はサンプリング数が多く、【その他サービス業(宿泊、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など)】はサンプリング数が少なくなっています。



II. 調査結果（総論）

- 当期の業況DIは 31.2(前年同期比)となり、14 期連続でプラスとなりました。来期の業況見通しDIは 30.9(当期比)となり、引き続き業況改善の動きが見込まれます。業況DI実績の推移について、コロナ禍からの回復が落ち着き下降気味にあるものの、高い水準で推移しています。

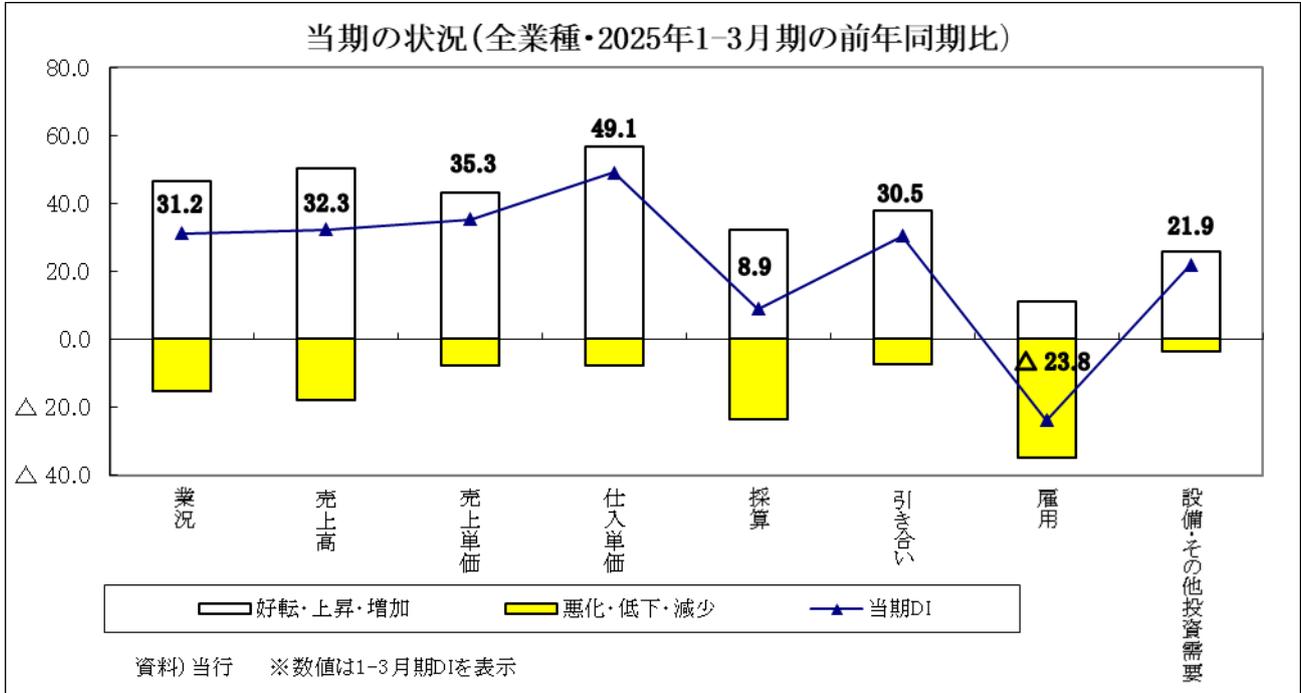
【業況DIの推移】	2023年		2024年				2025年	
	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期見通し	
項目	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前年同期比DI	前期比DI	
全業種	36.1	41.1	25.5	30.8	33.8	31.2	30.9	
製造業	40.0	52.0	37.0	29.4	20.0	△ 13.0	30.4	
土木業	30.8	22.2	△ 15.4	61.5	44.4	42.1	15.8	
建築業	41.2	51.2	17.1	32.4	40.0	47.1	20.6	
卸売業	38.5	24.0	21.4	13.6	18.5	46.2	38.5	
小売業	17.4	6.5	△ 19.0	28.6	30.0	33.3	50.0	
情報通信サービス業	100.0	0.0	14.3	20.0	66.7	33.3	83.3	
医療・福祉	54.5	42.3	27.8	10.0	15.8	10.7	25.0	
その他サービス業(宿泊・飲食等)	69.7	58.6	44.0	68.2	53.1	70.0	43.3	
運輸業、郵便業	0.0	75.0	37.5	55.6	50.0	33.3	50.0	
不動産業、物品賃貸業	17.2	48.8	58.6	18.5	33.3	30.6	36.1	
専門・技術サービス業、他	11.8	56.7	26.3	25.0	27.8	10.8	8.1	



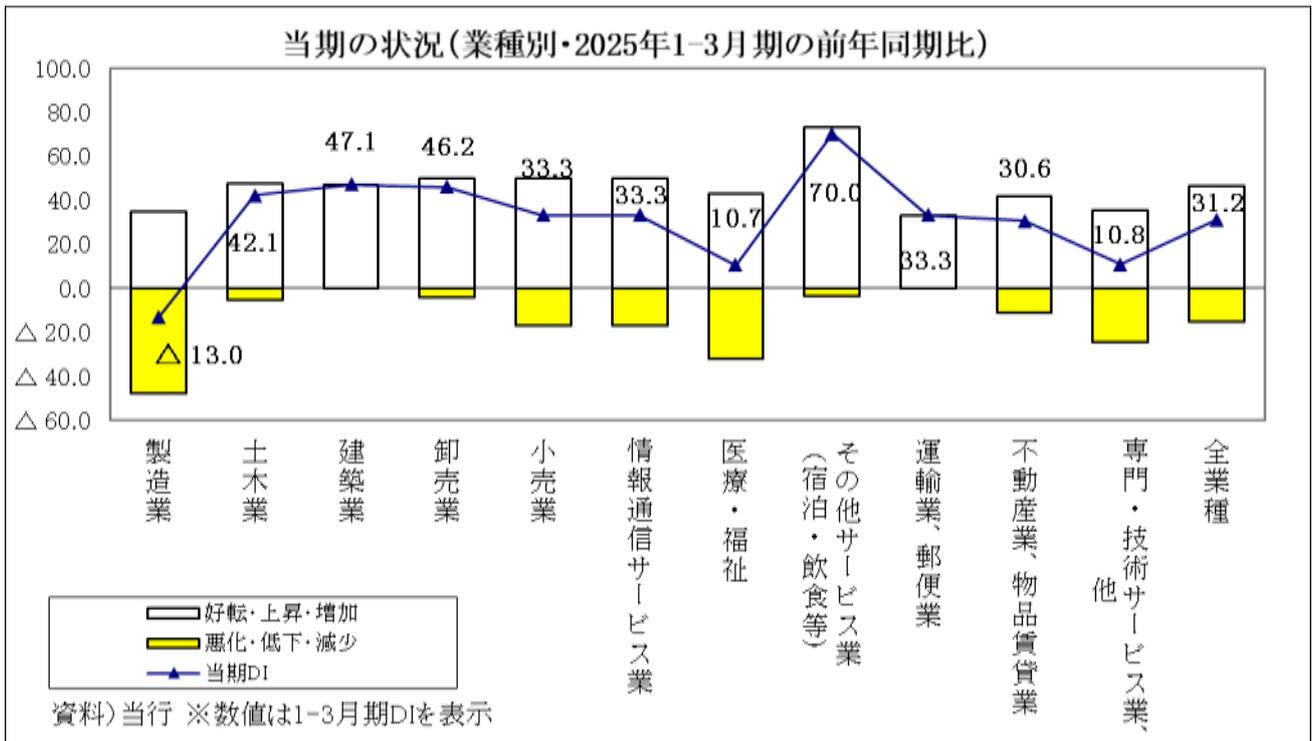
※「2025年4-6月期(見通し)」30.9については、今期(2025年1-3月期)との比較であり、前年同期との比較ではありません。このため折れ線グラフは連続していません。

1. 当期の状況（2025年1-3月期の前年同期比）

- 当期の業況DIは **31.2** となり、業況改善がみられます。項目別では、売上高(32.3)や引き合い(30.5)などの項目でプラスとなりました。採算(8.9)は仕入単価(49.1)上昇により他項目と比較しポイントは低くなっています。雇用(△23.8)はマイナスとなっており、不足感が続いています。

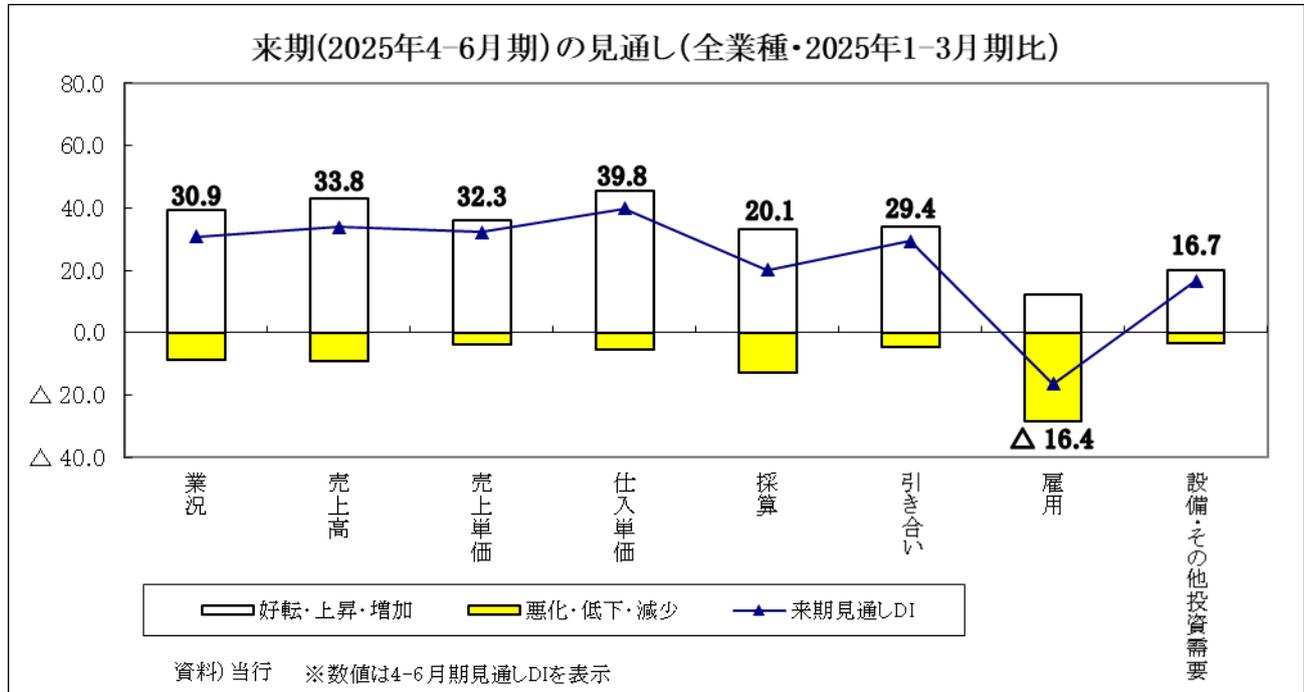


- 業種別では、【**その他サービス業(宿泊・飲食等)**(70.0)】などでポイントは高くなっています。【**医療・福祉**(10.7)】や【**専門・技術サービス業、他**(10.8)】は、他業種と比較しポイントは低くなっています。【**製造業**(△13.0)】は、原材料価格の高騰などにより、マイナスとなっています。

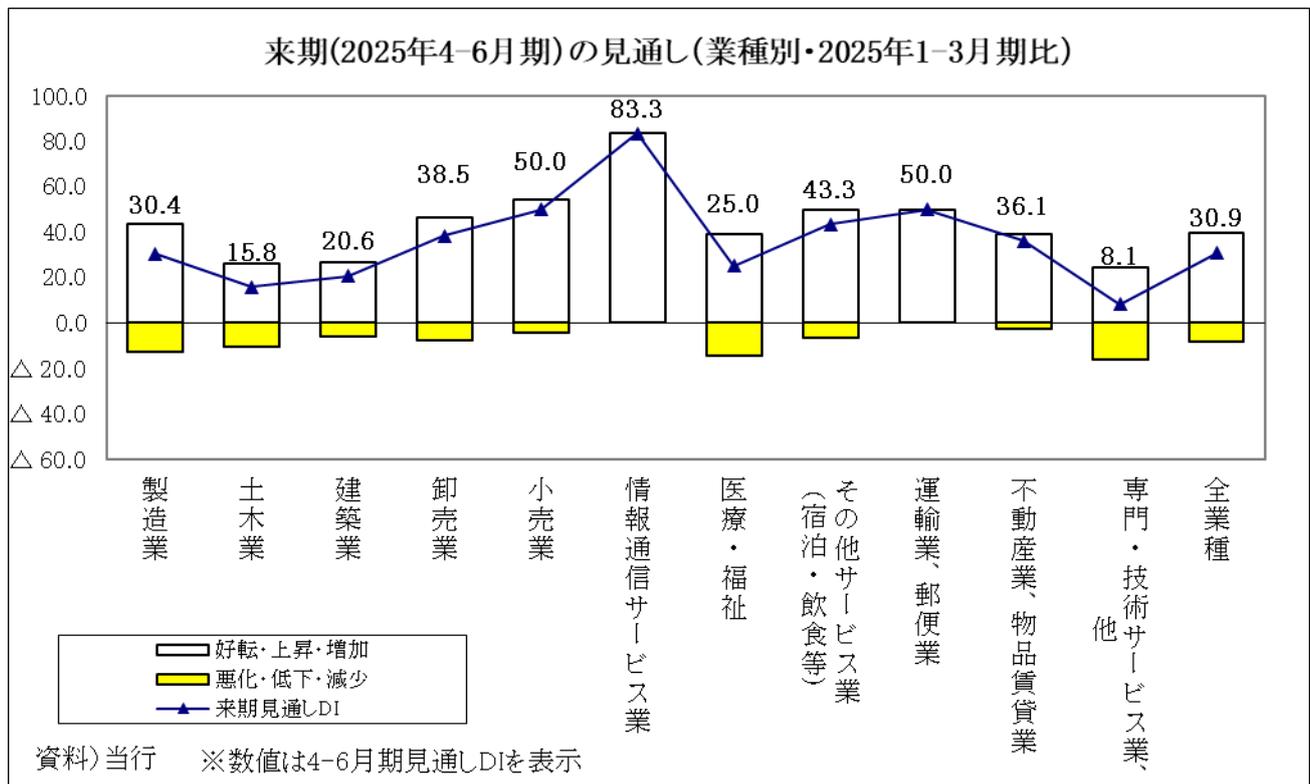


2. 来期の見通し（2025年4-6月期の当期比）

- 来期の見通し業況DIは30.9となり、引き続き業況改善の動きが見込まれます。項目別では、売上高(33.8)や引き合い(29.4)、採算(20.1)などで改善の動きが見込まれます。雇用(△16.4)は不足感が続く見通しとなっています。

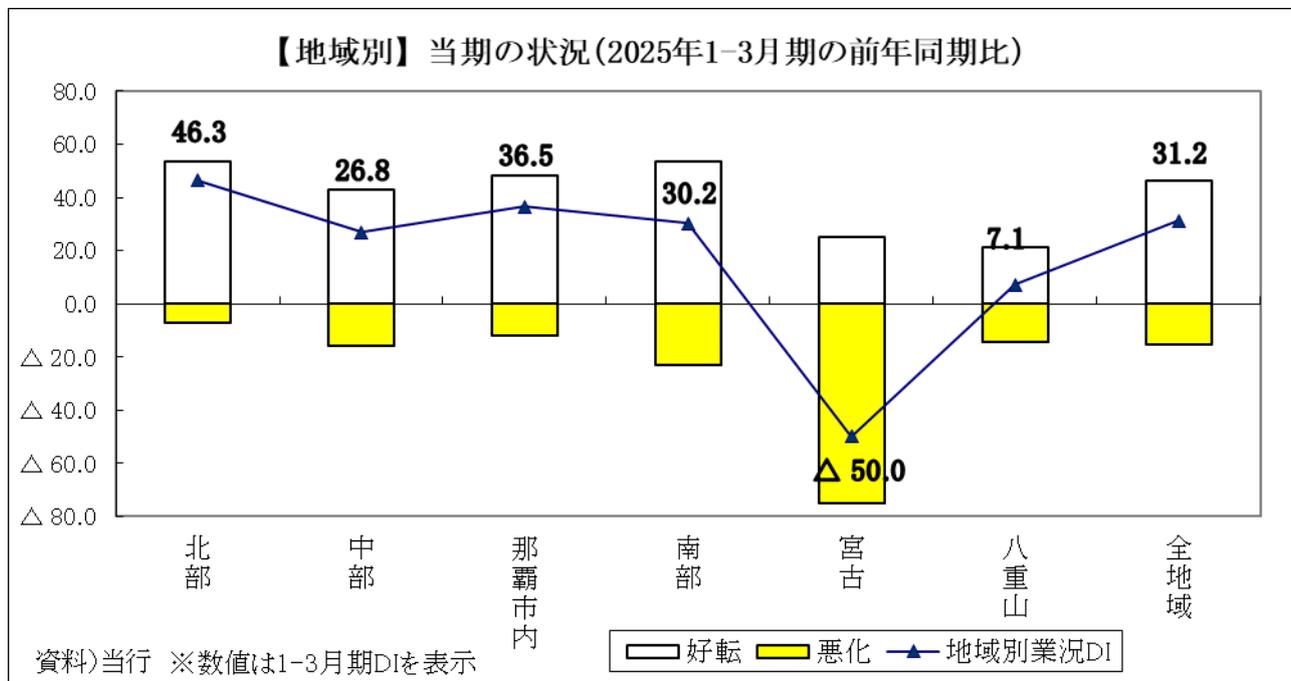


- 業種別では、全業種においてプラスとなりました。【情報通信サービス業(83.3)】は受注単価の引き上げ予定などからポイントは高くなっています。【小売業(50.0)】や【運輸業、郵便業(50.0)】は、観光客増加や売上単価の引き上げ予定などから、ポイントは高くなっています。

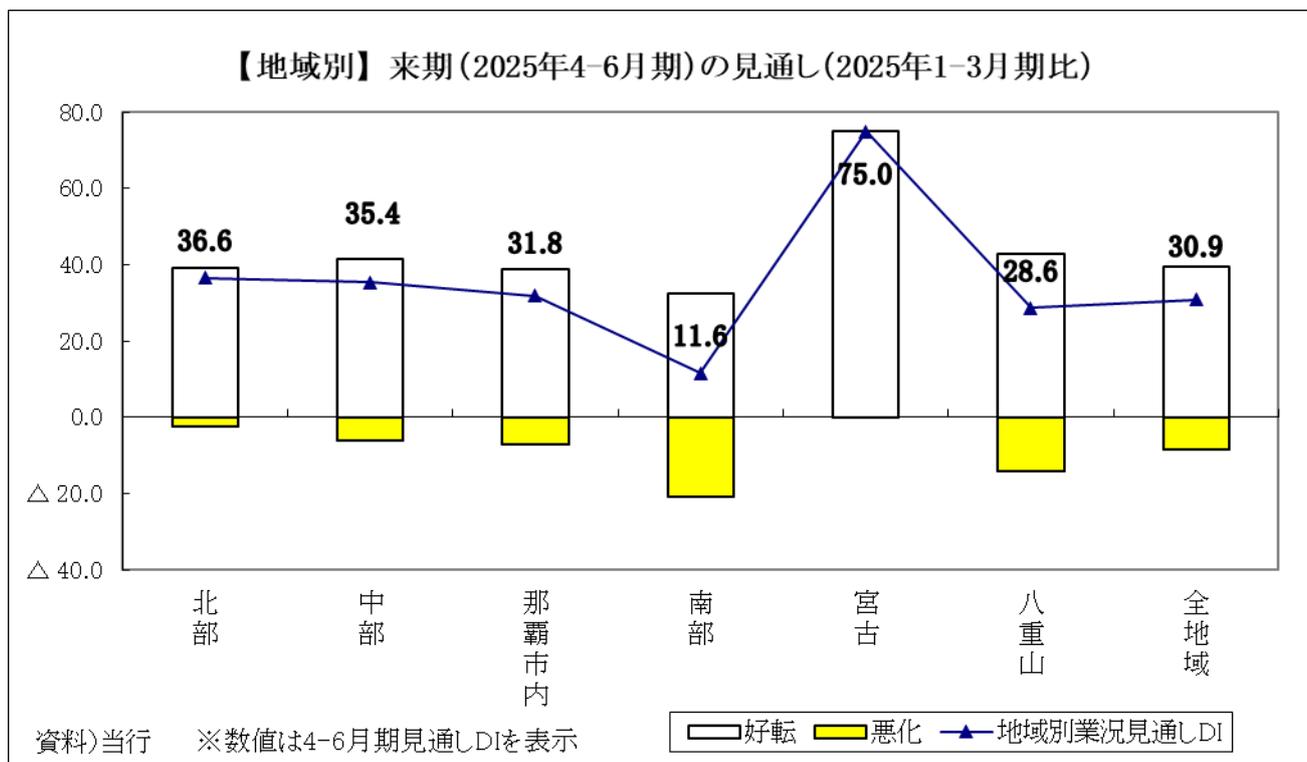


3. 地域別の業況 DI

- 当期の地域別 DI(前年同期比)について、北部(46.3)は観光関連産業の改善や工事受注増加などからポイントは高くなっています。一方、宮古(△50.0)は建設関連の事業者において受注減少した事業者がみられることなどから、マイナスとなっています。



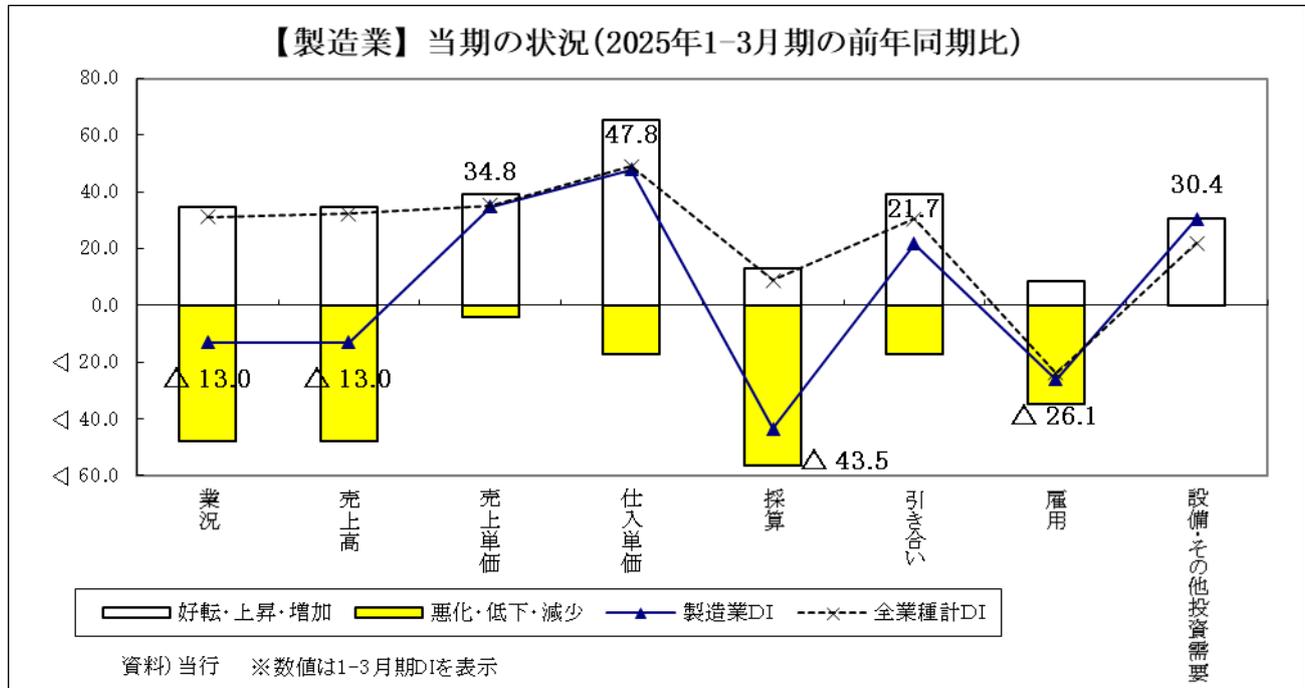
- 来期の地域別見通し業況 DI(当期比)について、宮古(75.0)は公共工事の受注増加を見込む事業者などにより、ポイントは高くなっています。一方、南部(11.6)は今期と同様の業況推移を見込む事業者が多いことなどからポイントは低くなっています。



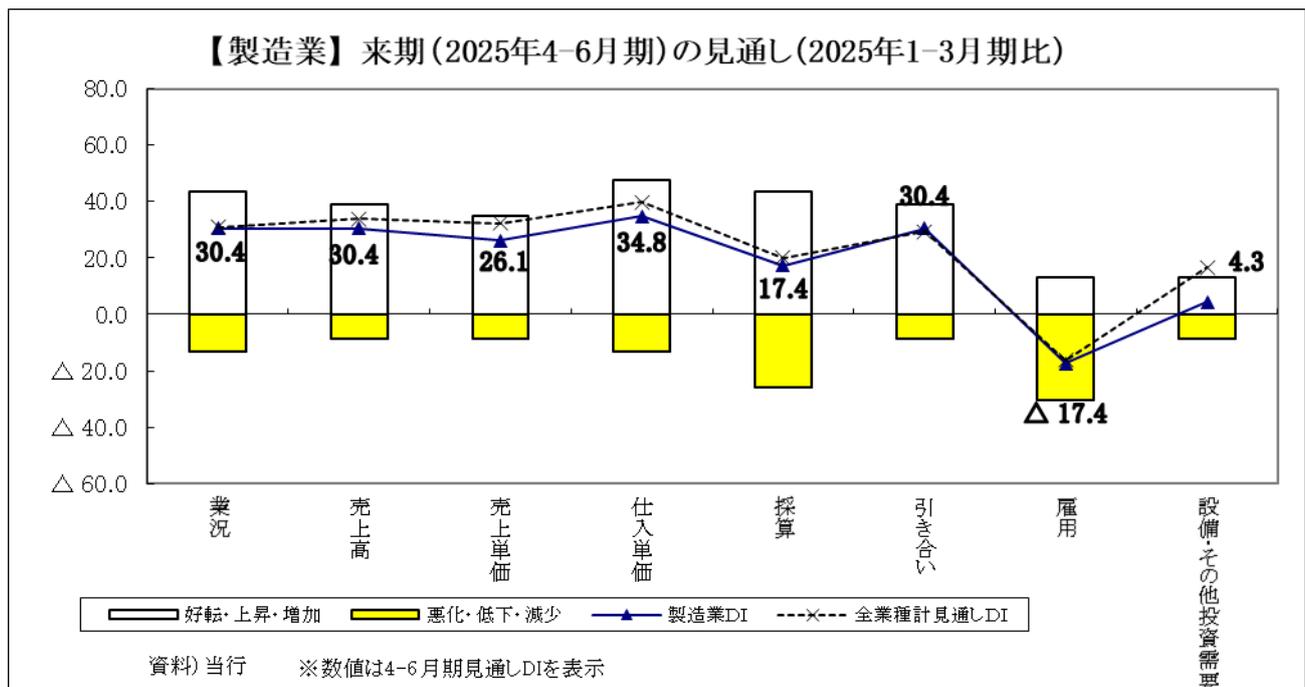
Ⅲ. 調査結果（各論）

1. 製造業（回答企業：23社）

- ▶ 当期の業況DI(前年同期比)は $\Delta 13.0$ となりました。売上高($\Delta 13.0$)は酒類製造業や印刷業、生コン製造業などで業況悪化した事業者がみられ、マイナスとなっています。仕入単価(47.8)は原材料費の増加が続いており、価格転嫁は十分とはいえず採算($\Delta 43.5$)は大きくマイナスとなっています。

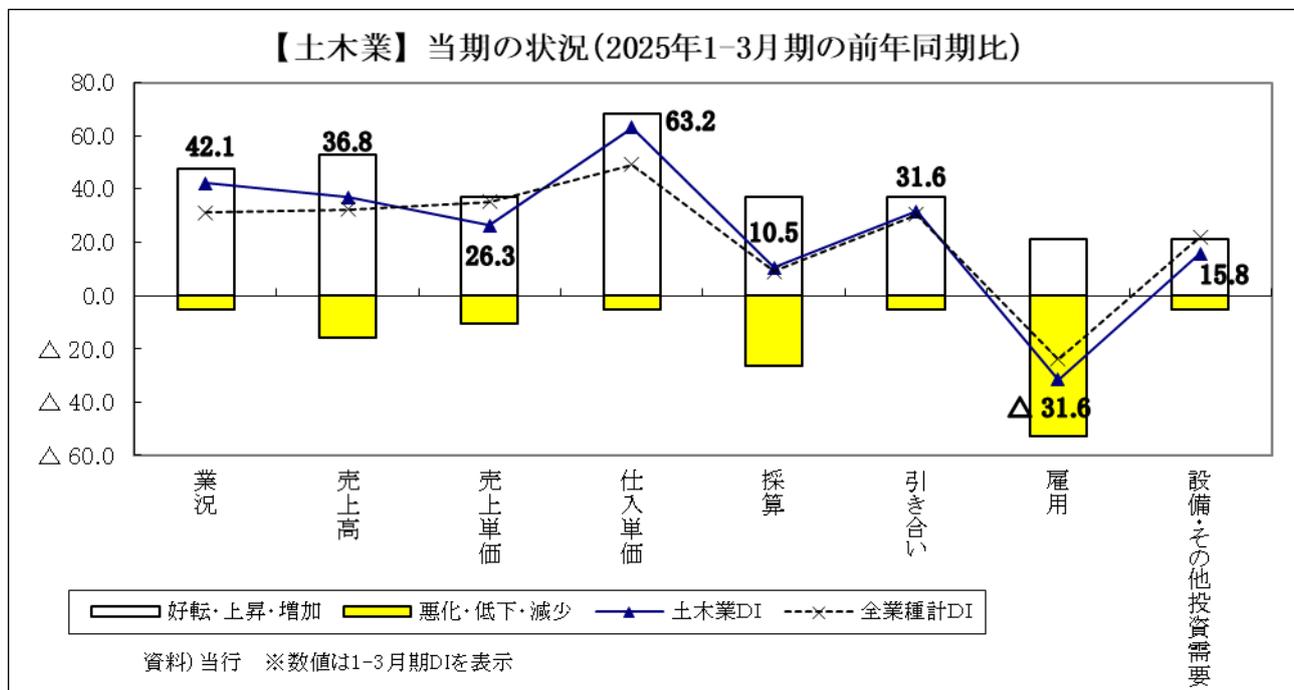


- ▶ 来期の見通し業況DI(当期比)は **30.4** となりました。引き合い(30.4)は増加見込みとなっています。仕入単価(34.8)の上昇が続くことが見込まれ、売上単価(26.1)への転嫁による採算の確保が課題と想定されます。

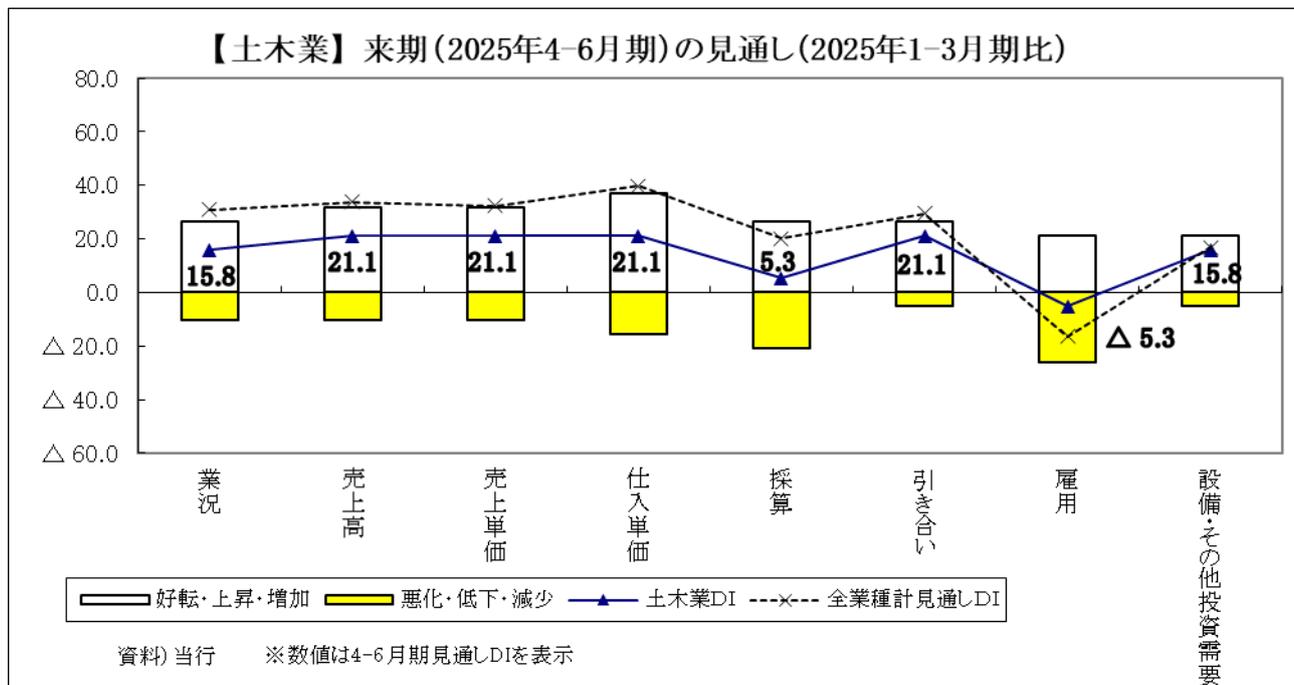


2. 土木業（回答企業：19社）

- 当期の業況DI(前年同期比)は公共工事(基地関連工事など)の受注増加などから**42.1**となり、業況改善がみられます。一方、建設資材高騰による仕入単価(63.2)の上昇が続いており、採算(10.5)についてポイントは低くなっています。雇用(△31.6)はマイナスとなっており、若手人材の不足や、退職に伴う人材不足がみられます。

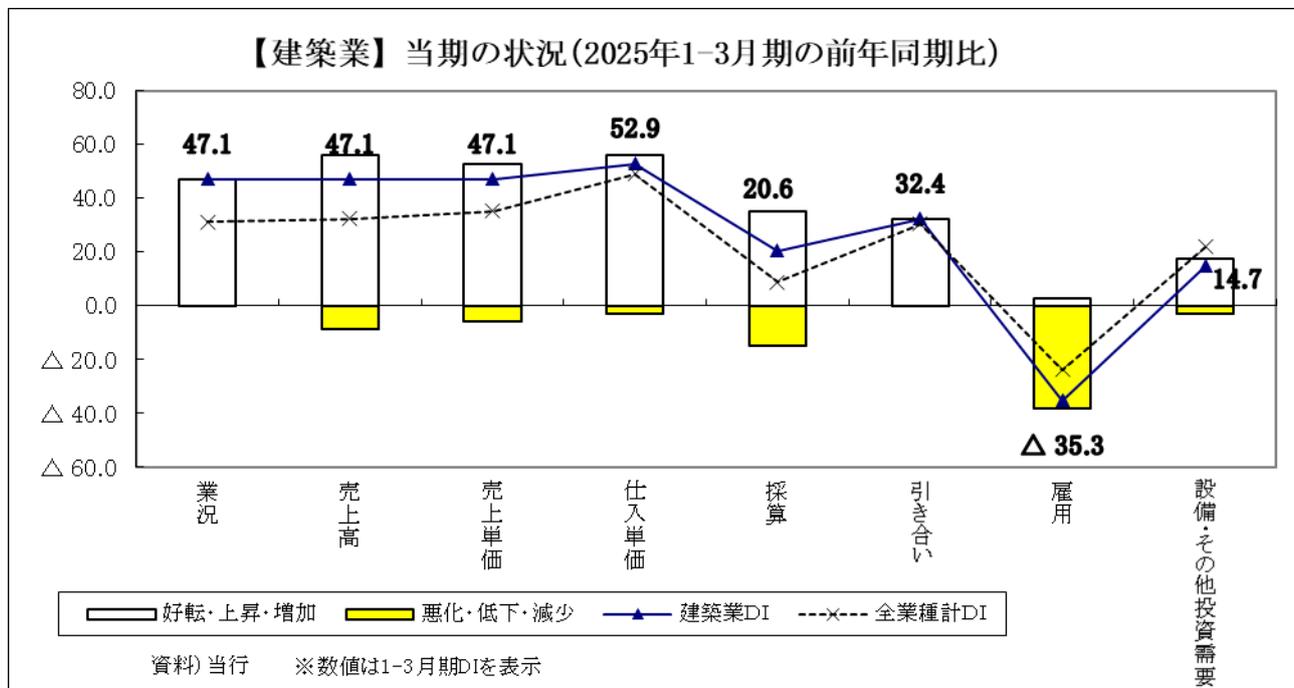


- 来期の見通し業況DI(当期比)は**15.8**となりました。公共工事の受注について安定推移を見込む事業者がみられます。また、受注単価の引き上げを予定する事業者もみられます。

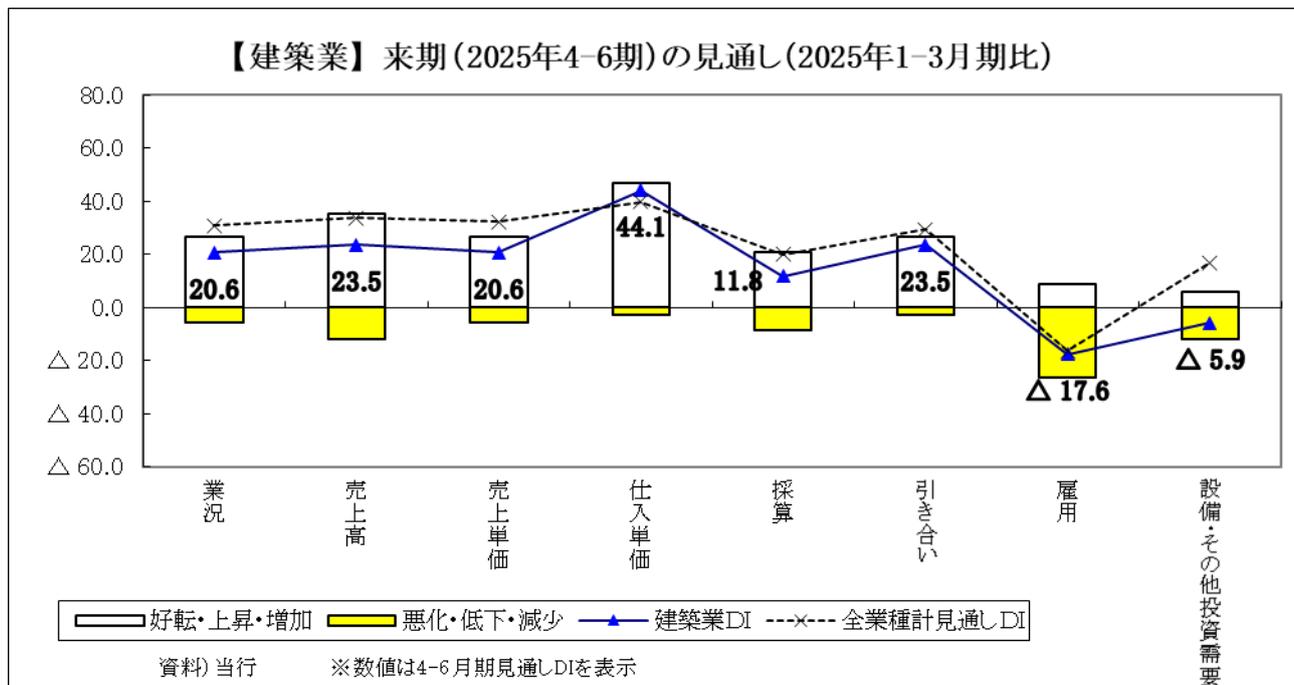


3. 建築業（回答企業：34社）

- 当期の業況 DI(前年同期比)は公共・民間工事の受注増加などから **47.1** となり業況改善がみられます。単価の高い受注のあった事業者もみられ、採算(20.6)は他業種と比較しポイントは高くなっています。雇用(△35.3)は、退職に伴う人材不足などがみられます。

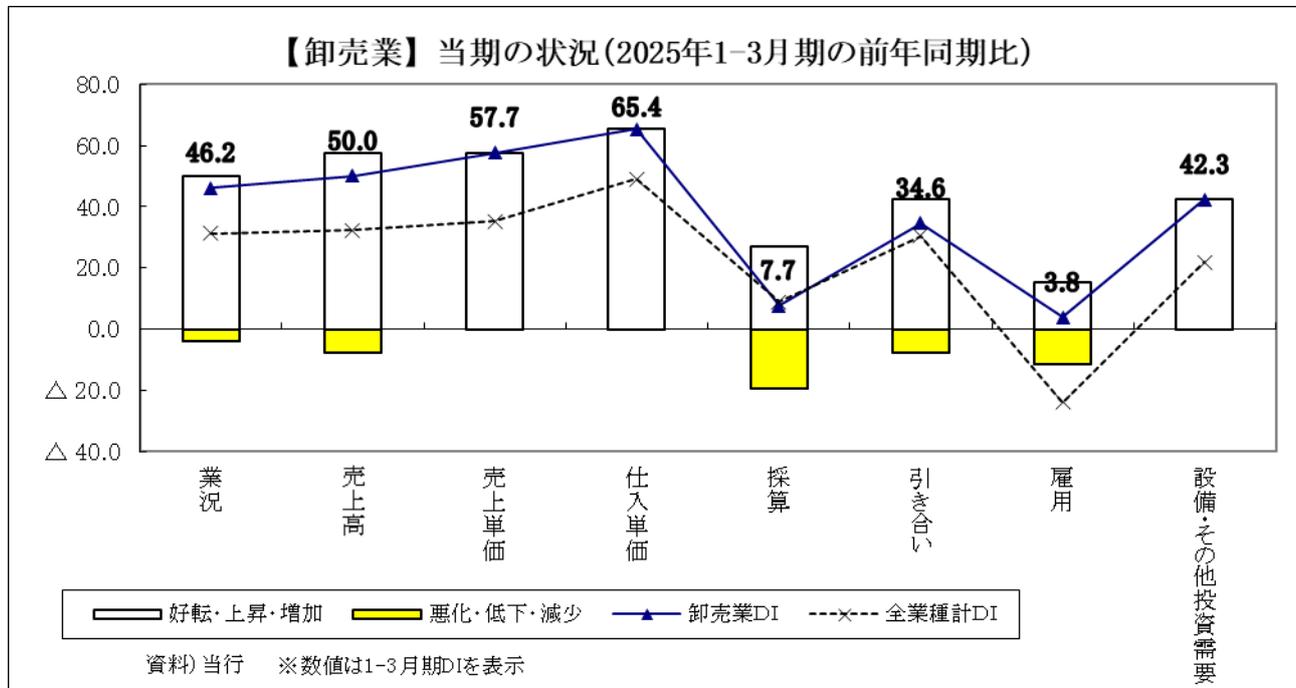


- 来期の見通し業況 DI(当期比)は民間工事の受注見込みなどから **20.6** となり、業況改善の動きが見込まれます。仕入単価(44.1)は、ポイントは高くなっています。設備・その他投資需要(△5.9)は他業種と比較しポイントは低くなっています。

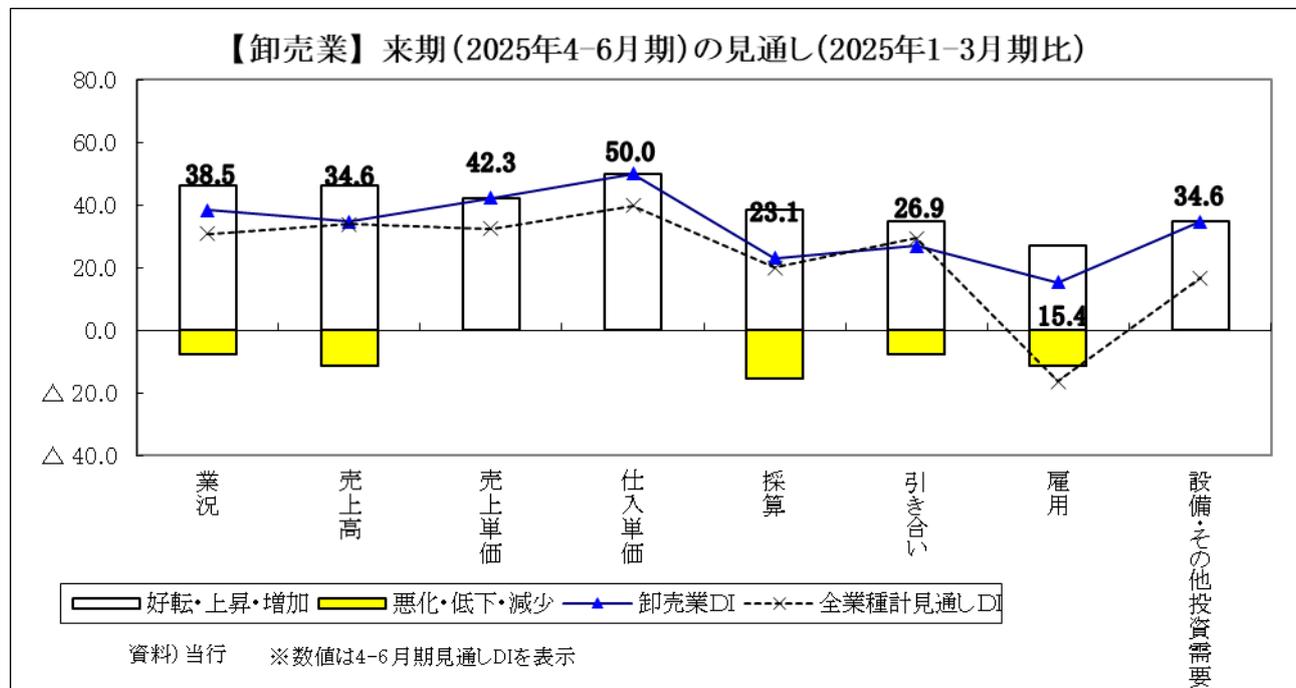


4. 卸売業（回答企業：26社）

- 当期の業況 DI(前年同期比)は **46.2** となりました。売上高(50.0)は円安に伴う売上単価(57.7)の上昇や取引先の増加などから業況が改善した事業者が多くみられます。一方、採算(7.7)は円安による仕入れ単価上昇や人件費などの経費増加により悪化した事業者もみられます。

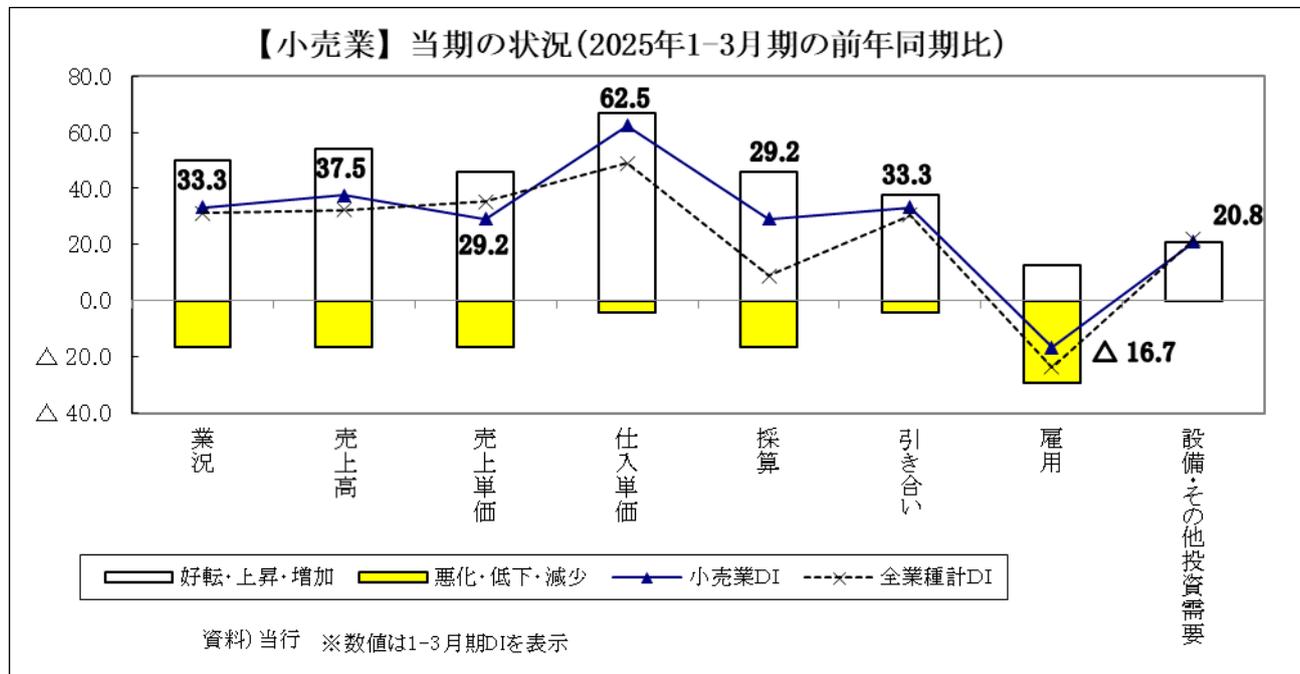


- 来期の見通し業況 DI (当期比)は **38.5** となりました。観光や建設関連の需要増加などにより、改善を見込む事業者がみられます。売上単価(42.3)の引き上げを予定する事業者も、多くみられます。

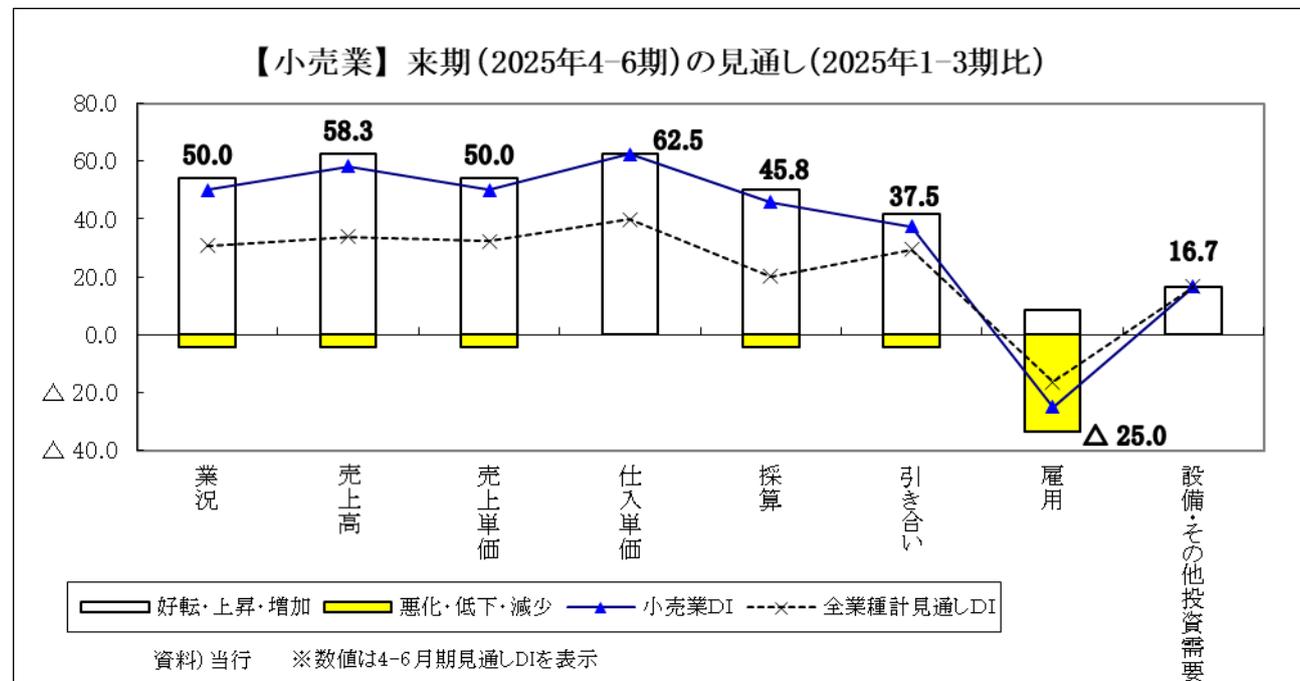


5. 小売業（回答企業：24社）

- 当期の業況 DI(前年同期比)は **33.3** となりました。飲食料品小売業は、観光客増加などから、売上高は改善しています。その他小売業を含め、仕入単価(62.5)は上昇しているものの、売上単価(29.2)への転嫁にて採算(29.2)は改善傾向がみられます。

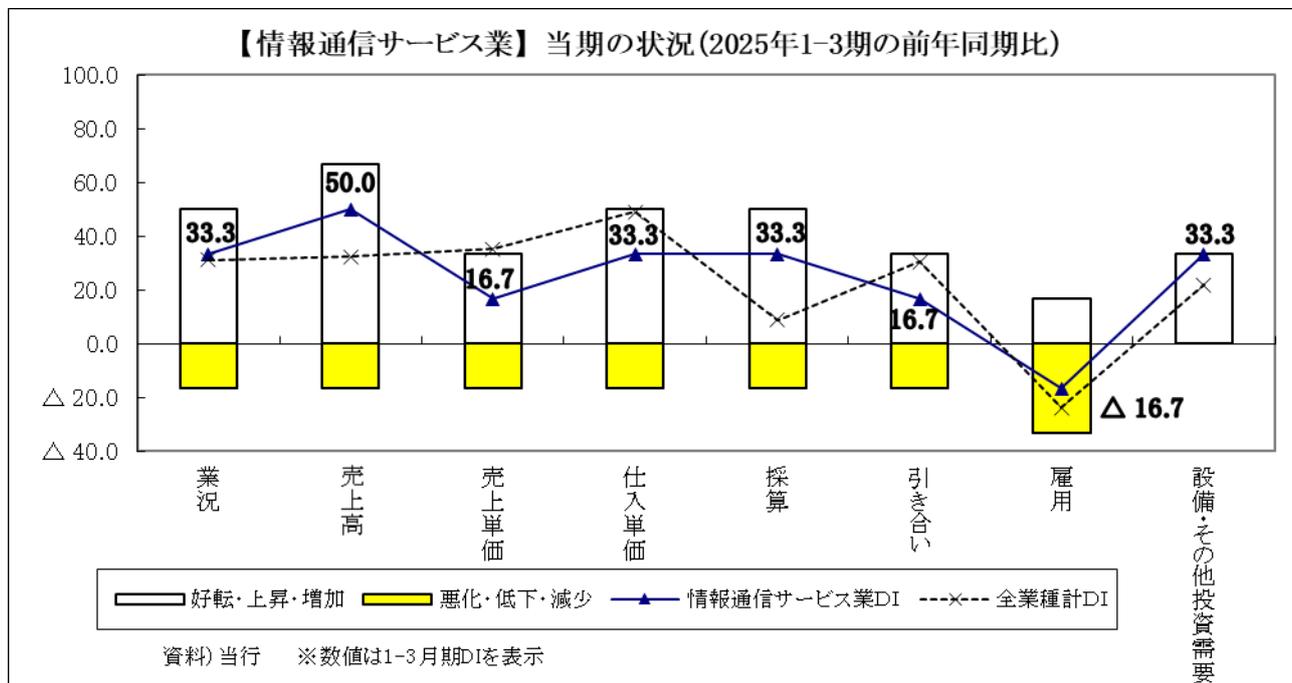


- 来期の見通し業況 DI(当期比)は **50.0** となりました。観光客増加などから売上高(58.3)のポイントは高くなっており、業況改善の動きが見込まれます。雇用(△25.0)は、不足感が続く見通しとなっています。

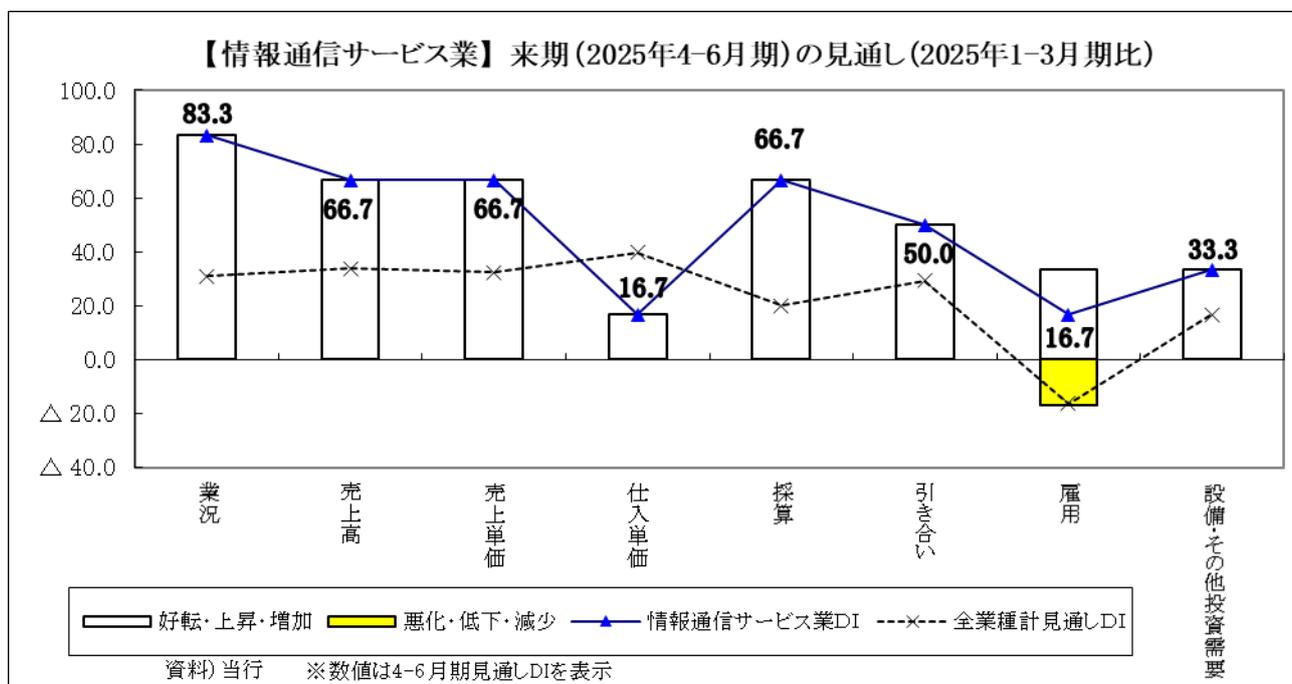


6. 情報通信サービス業（回答企業：6社）

- 当期の業況 DI(前年同期比)は **33.3** となりました。システム開発事業者では、安定した業務受注や売上単価の引き上げなどから、業況改善した事業者がみられます。

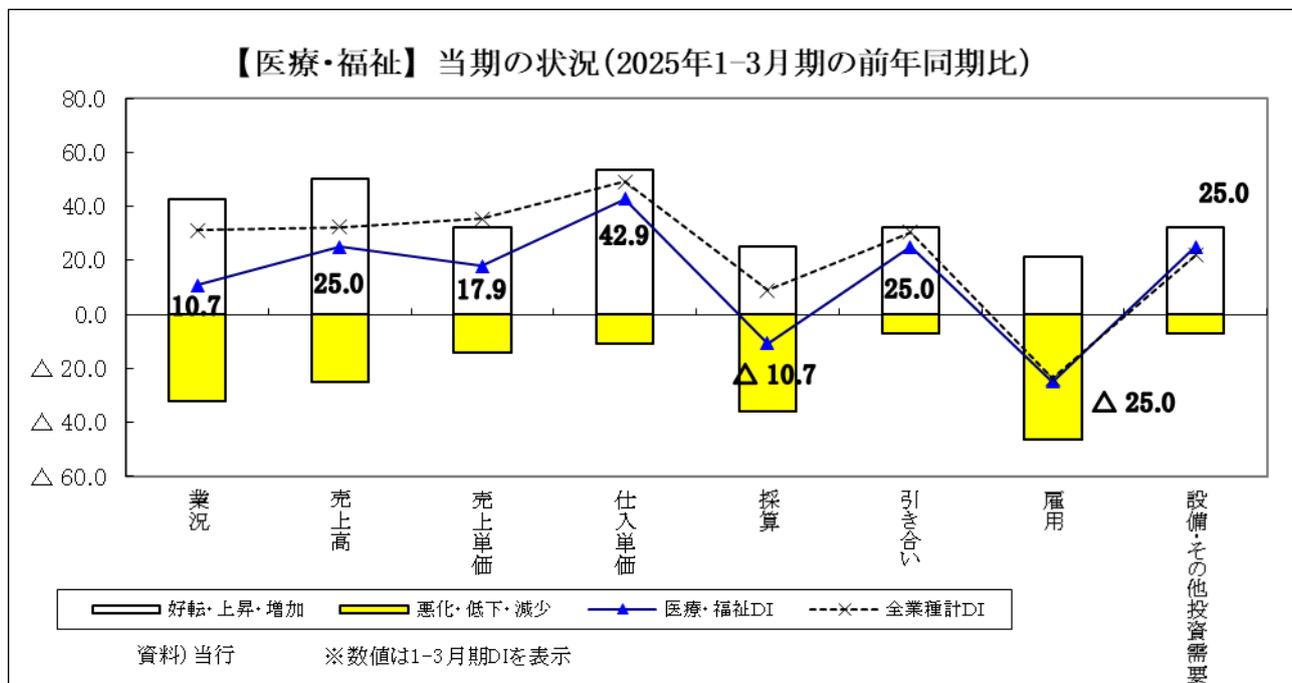


- 来期の見通し業況 DI(当期比)は **83.3** となりました。安定したシステム開発等業務の受注などから、改善を見込む事業者がみられます。受注単価の引き上げや業務効率化などにより、採算(66.7)の確保を見込む事業者がみられます。

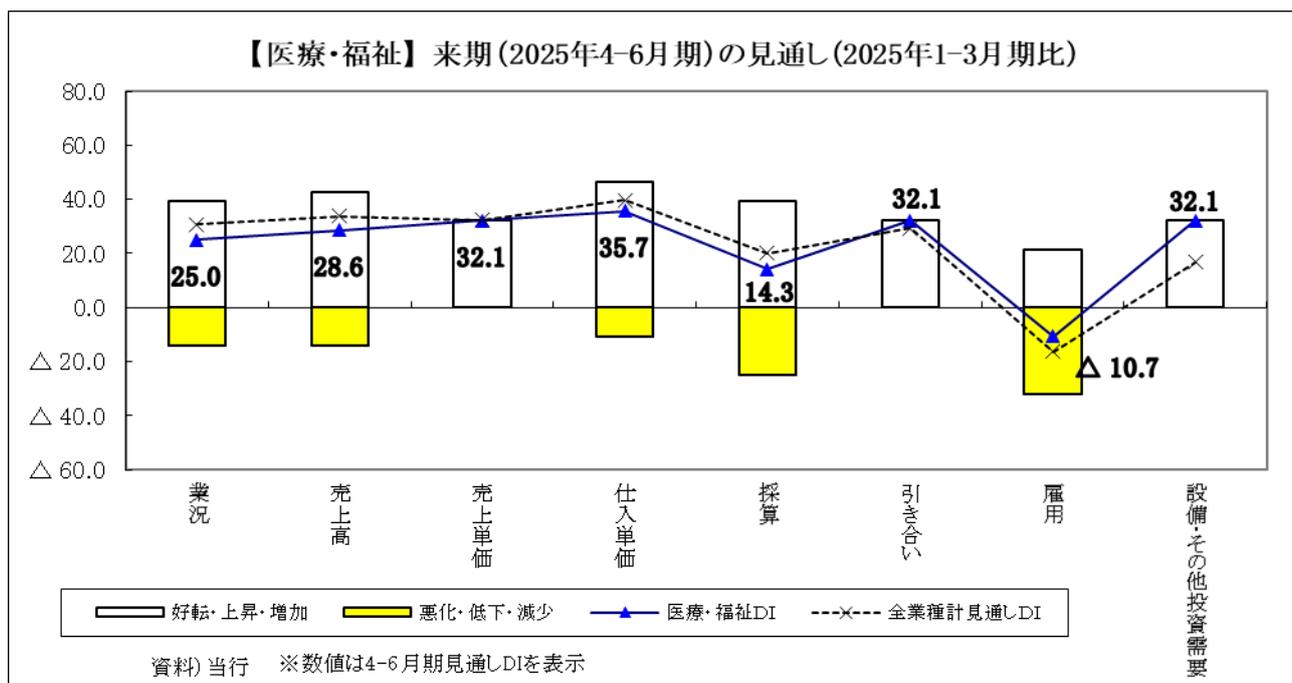


7. 医療・福祉（回答企業：28社）

- ▶ 当期の業況 DI(前年同期比)は 10.7 となりました。売上高(25.0)は、利用者数減少した介護事業者も一部みられます。また診療報酬や福祉サービス等報酬は大きく変化しない一方、食材費など仕入単価(42.9)やその他経費上昇などにより、採算($\Delta 10.7$)はマイナスとなっています。



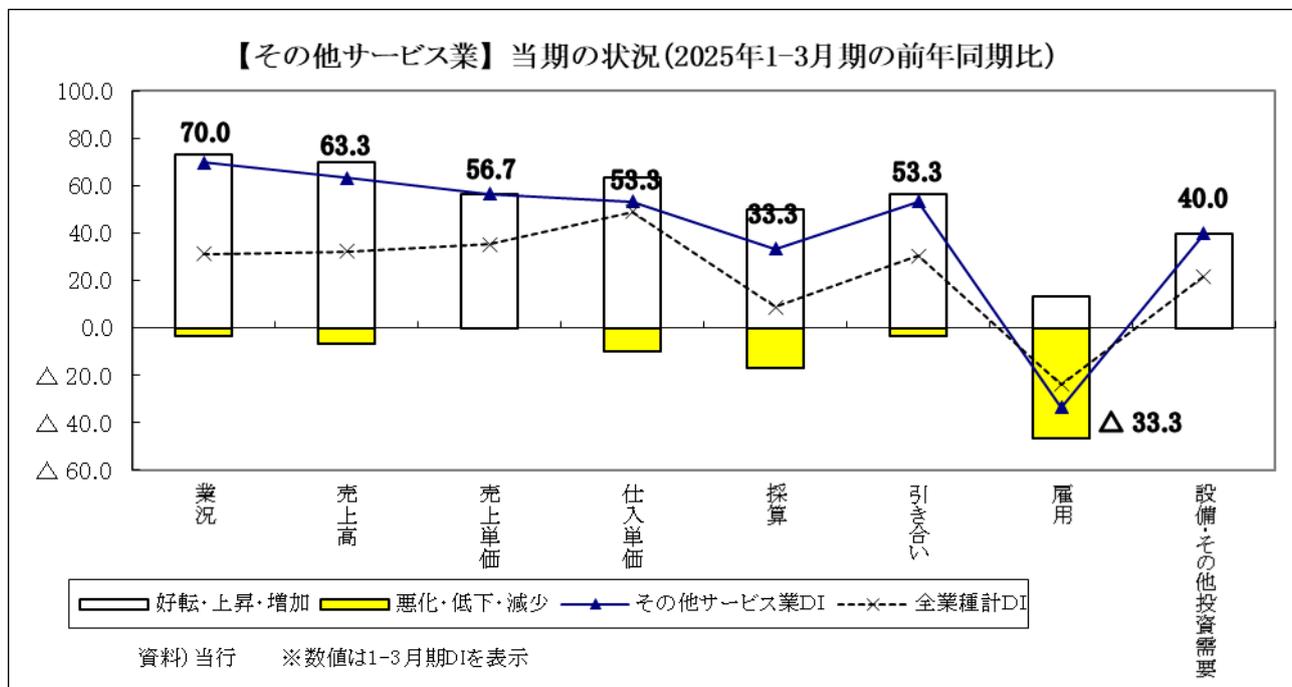
- ▶ 来期の見通し業況 DI(当期比)は安定した診療や介護施設利用の需要から 25.0 となり、業況改善の動きが見込まれます。一方、光熱費や人件費、仕入費などの費用増加により採算悪化を見込む事業者もみられます。



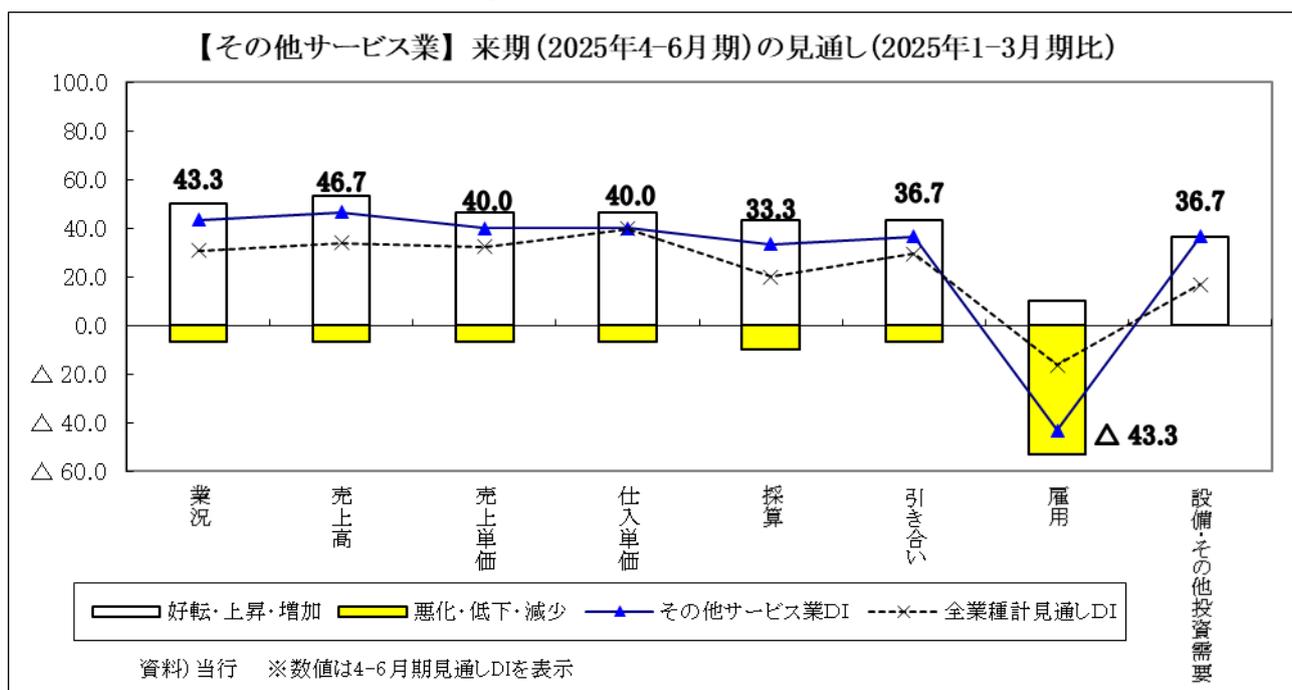
8. その他サービス業（ホテル、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業など）

（回答企業：30社）

- ▶ 当期の業況 DI(前年同期比)は **70.0** となりました。インバウンド含む観光客増加などから業況改善がみられます。また、需要増加に伴い売上単価(63.3)も上昇しており、採算(33.3)は他業種と比較しポイントは高くなっています。雇用(△33.3)は、不足感がみられます。

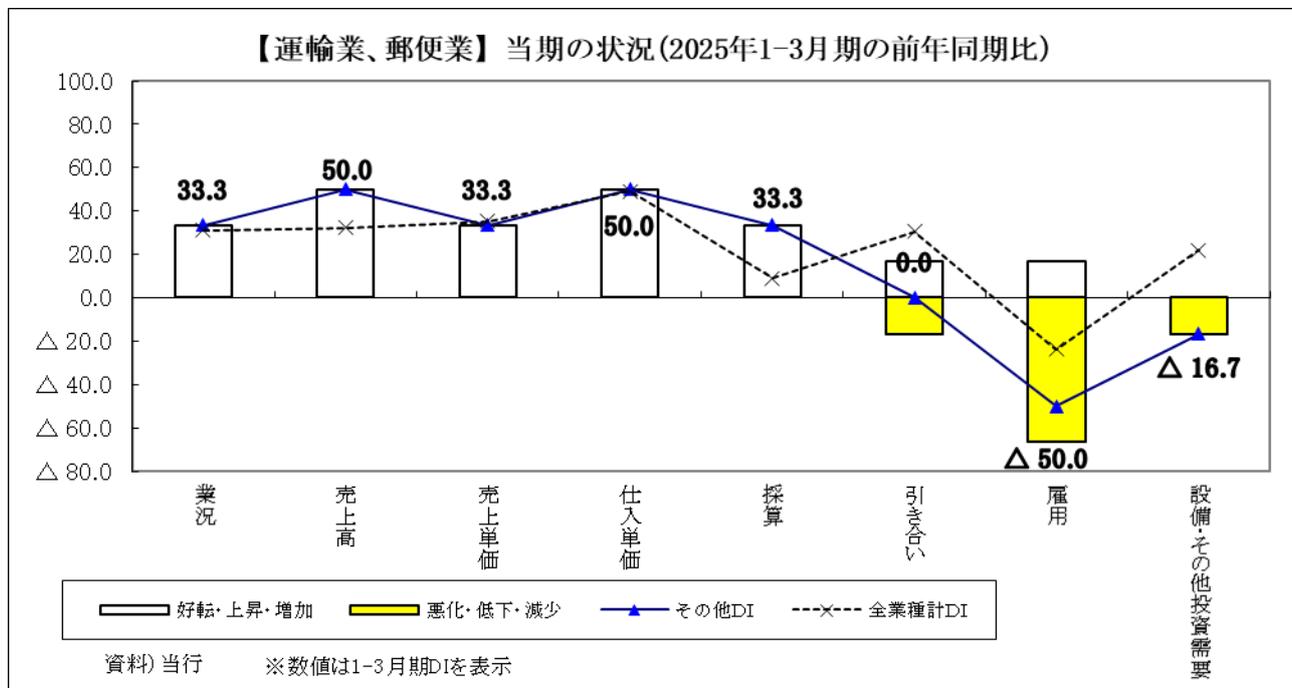


- ▶ 来期の見通し業況 DI(当期比)は **43.3** となり、業況改善の動きが見込まれます。引き続きインバウンド含む観光客増加から改善を見込む事業者がみられます。雇用(Δ43.3)は大きくマイナスとなっており、不足感が続く見通しとなっています。

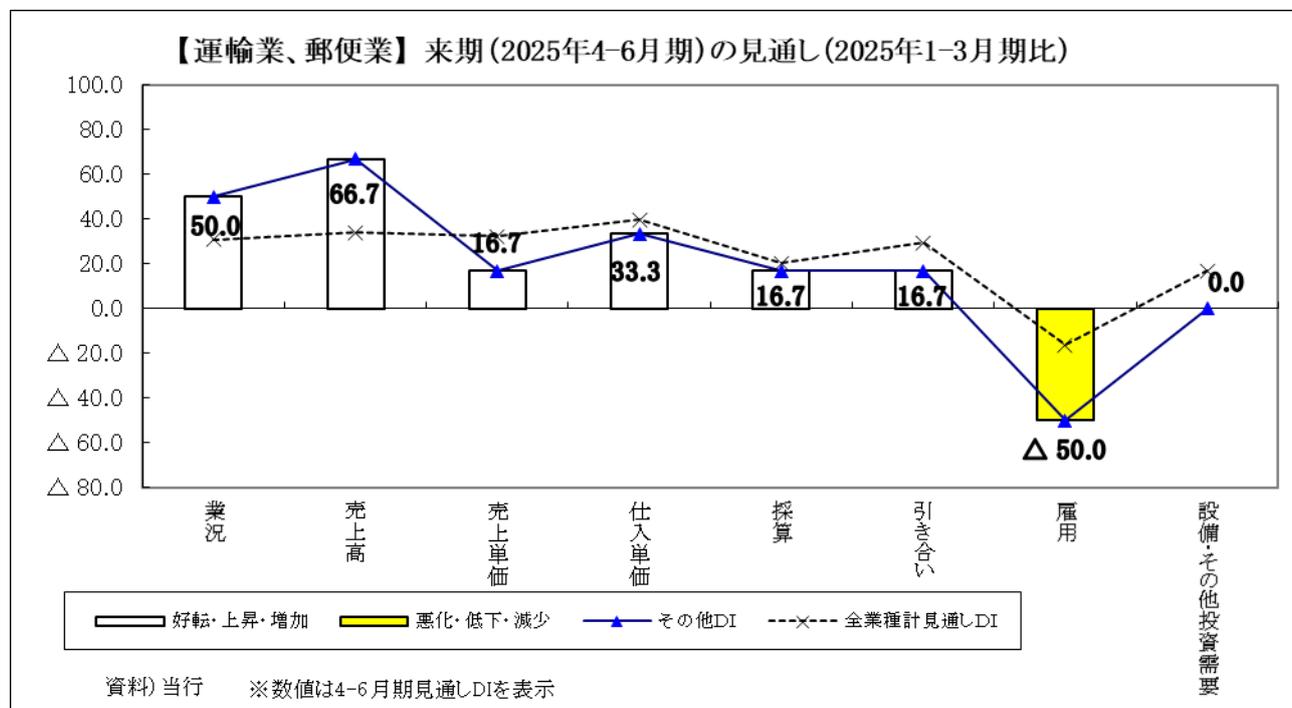


9. 運輸業、郵便業（回答企業：6社）

- 当期の業況 DI(前年同期比)は、**33.3** となり業況改善がみられます。タクシーや観光船などの旅客運送業は、観光客増加により改善した事業者がみられます。投資需要($\Delta 16.7$)は、マイナスとなっています。雇用($\Delta 50.0$)は大きくマイナスとなっており、ドライバーの不足感がみられます。

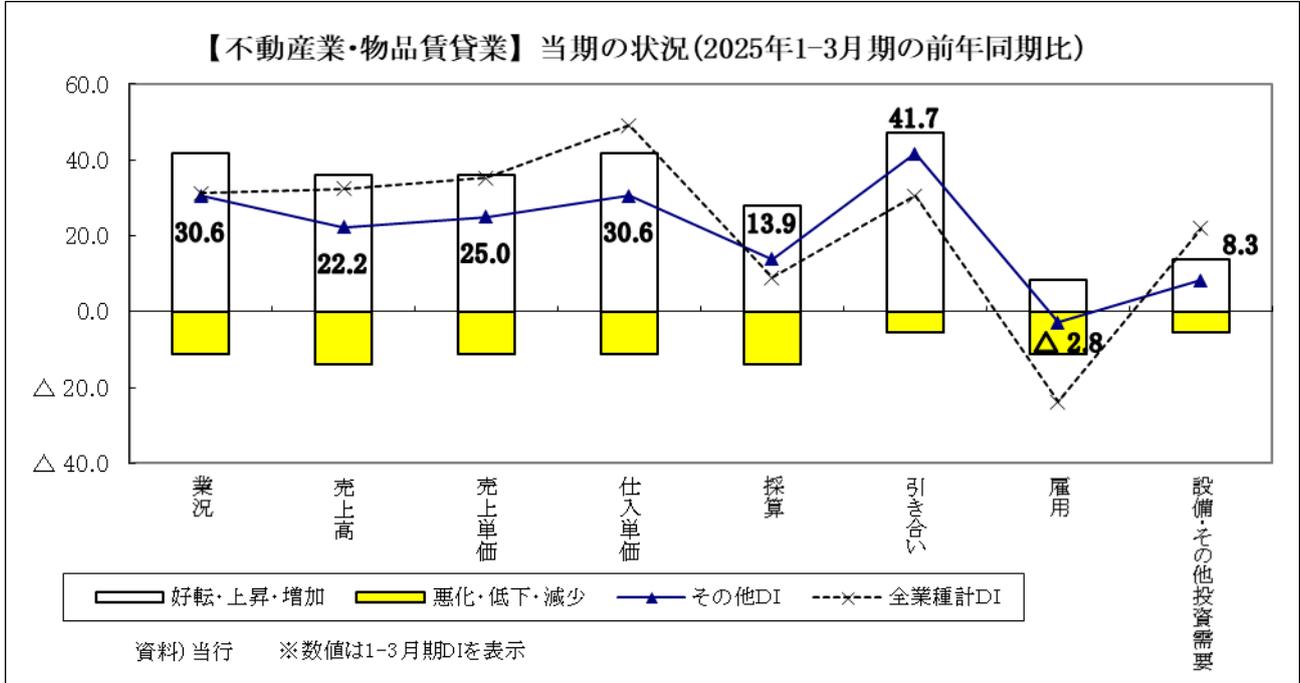


- 来期の見通し業況 DI(当期比)は **50.0** となりました。タクシーや観光船などの旅客運送業は、観光客増加などにより業況改善の動きが見込まれています。雇用($\Delta 50.0$)は不足感が続く見通しとなっています。

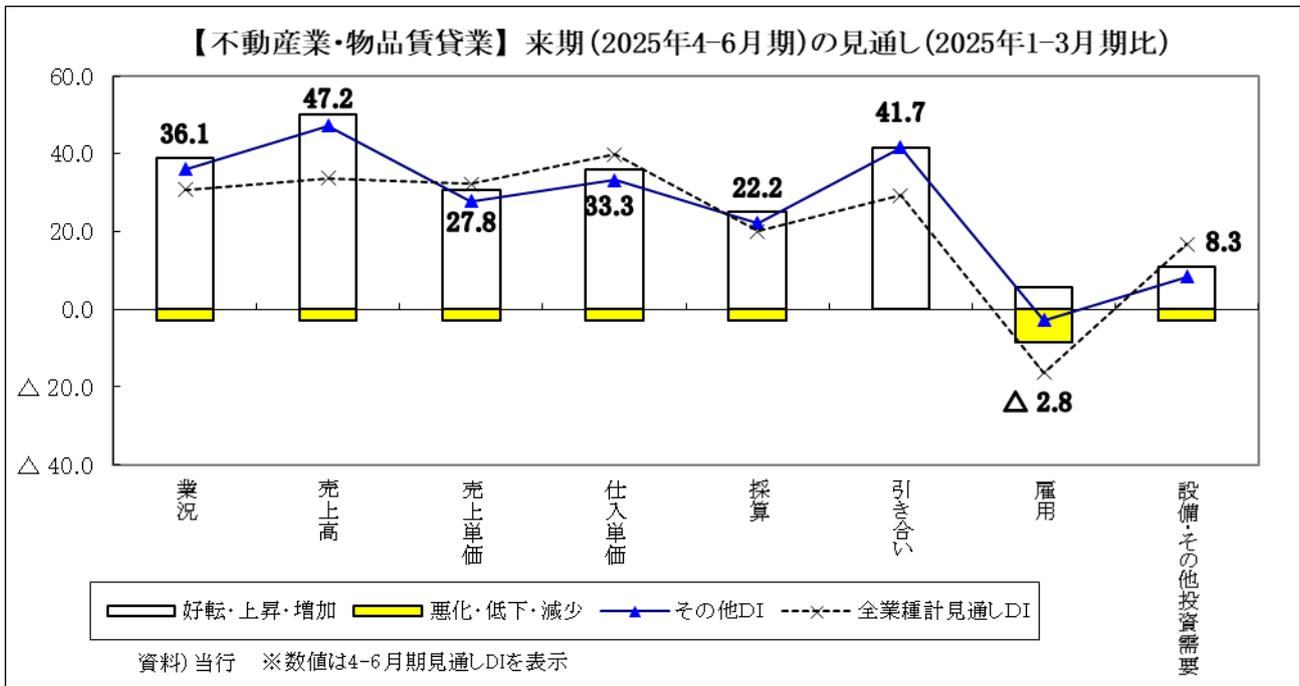


10. 不動産業、物品賃貸業（回答企業：36社）

- 当期の業況DI(前年同期比)は**30.6**となり、業況の改善がみられます。不動産売買・仲介業は売上単価が上昇した事業者がみられます。引き合い(41.7)は他業種と比較し高くなっており、不動産需要の高さが窺えます。

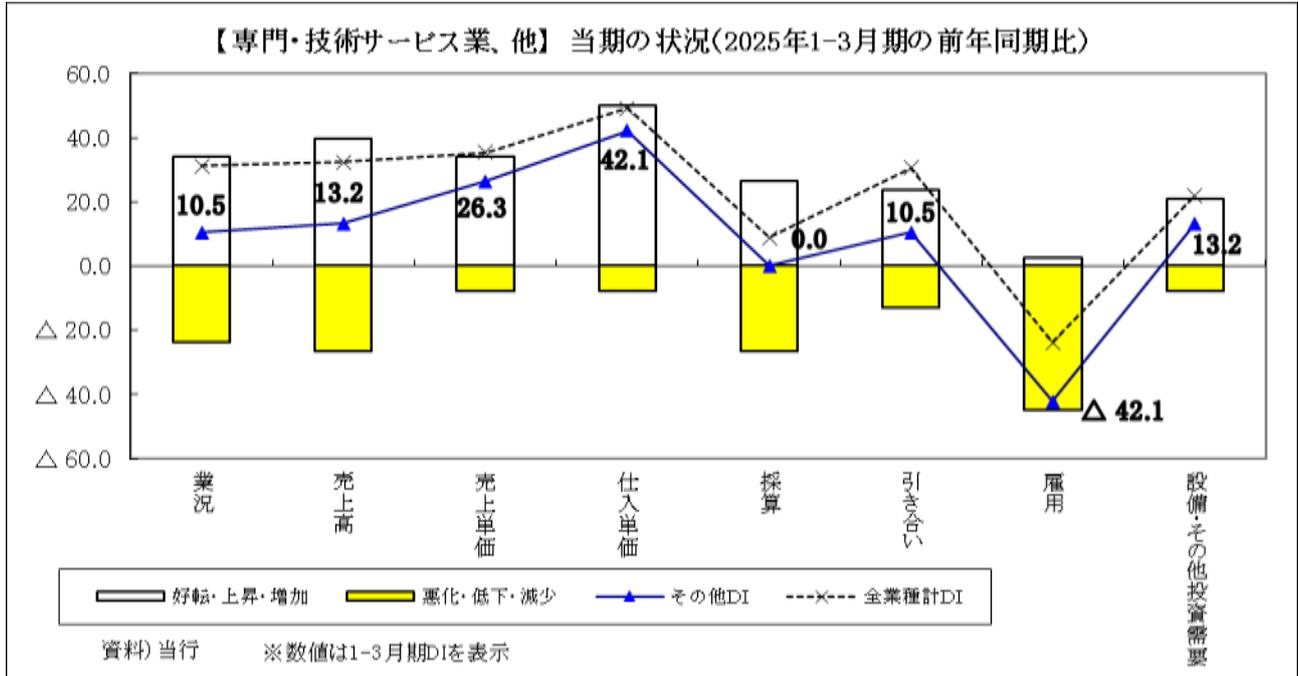


- 来期の見通し業況DI(当期比)は**36.1**となり業況改善の動きが見込まれます。引き合い(41.7)は観光需要増加の影響などにより、他業種と比較しポイントは高くなっています。北部ではテーマパークの開業予定もあり、引き続き高い不動産需要を見通す事業者がみられます。

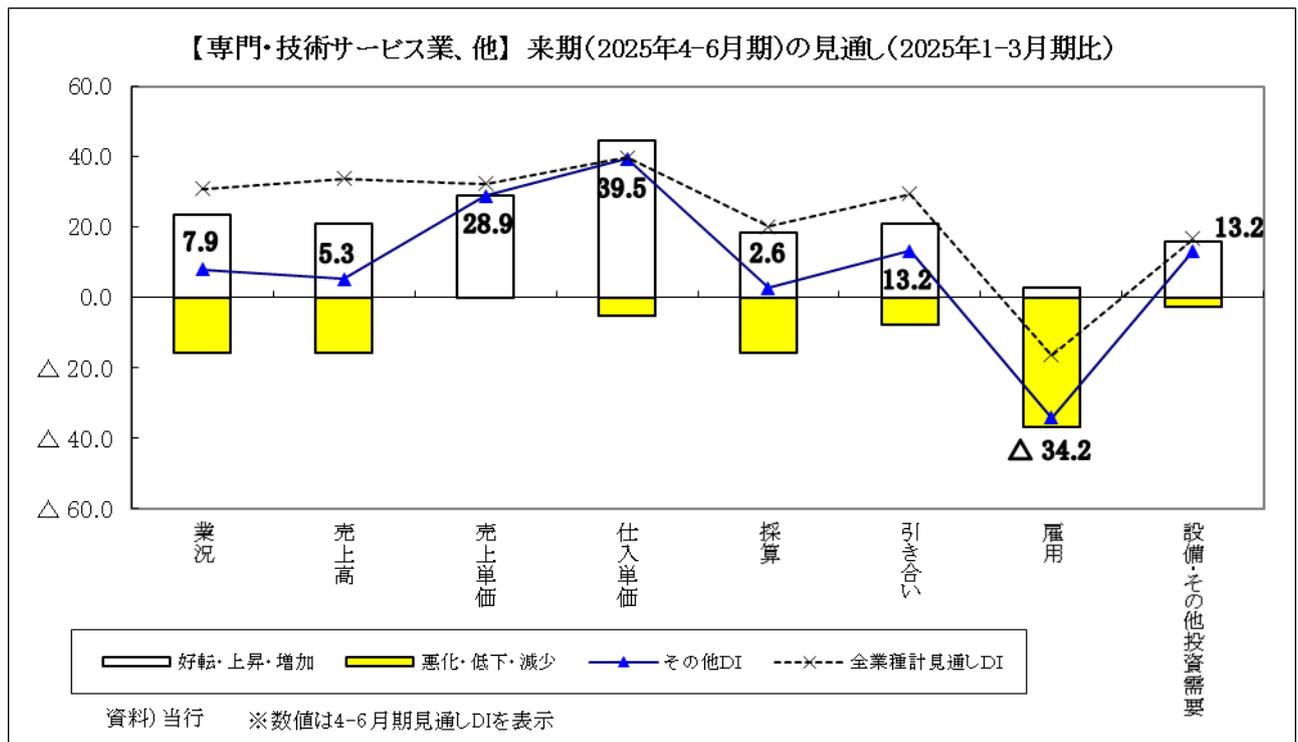


11. 専門・技術サービス業、他（回答企業：37社）

- 当期の業況DI(前年同期比)は10.5なり、業況の改善がみられます。採算(0.0)は仕入単価(42.1)の上昇などから、他業種と比較し低くなっています。建設コンサルタント業では業務受注の減少、産業廃棄物処理業では、解体工事の受注減少により業況悪化した事業者がみられます。雇用(△42.1)は大きくマイナスとなっており、不足感がみられます。



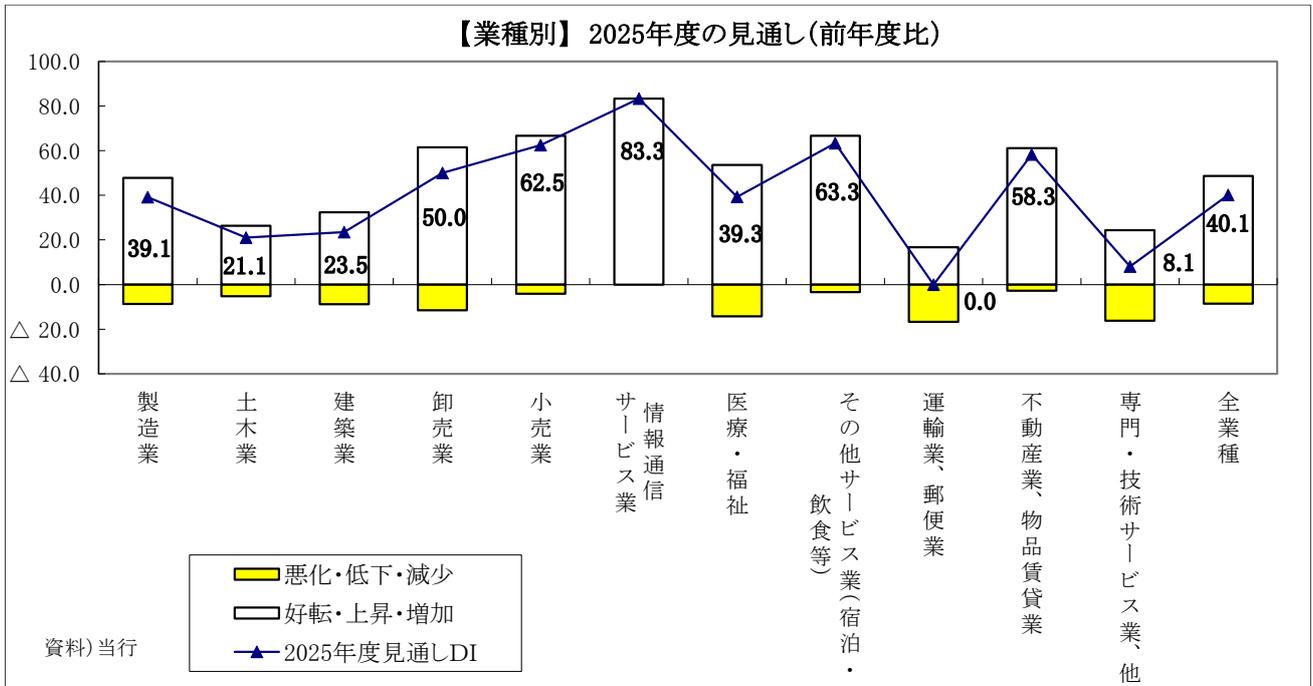
- 来期の見通し業況DI(当期比)は7.9となり、業況改善の動きが見込まれます。建設コンサルタント業や自動車整備業など、同様推移を見込む事業者が多くみられます。雇用(△34.2)は、不足感が続く見通しとなっています。



IV. 調査結果 2025 年度の見通し D I (2024 年度比)

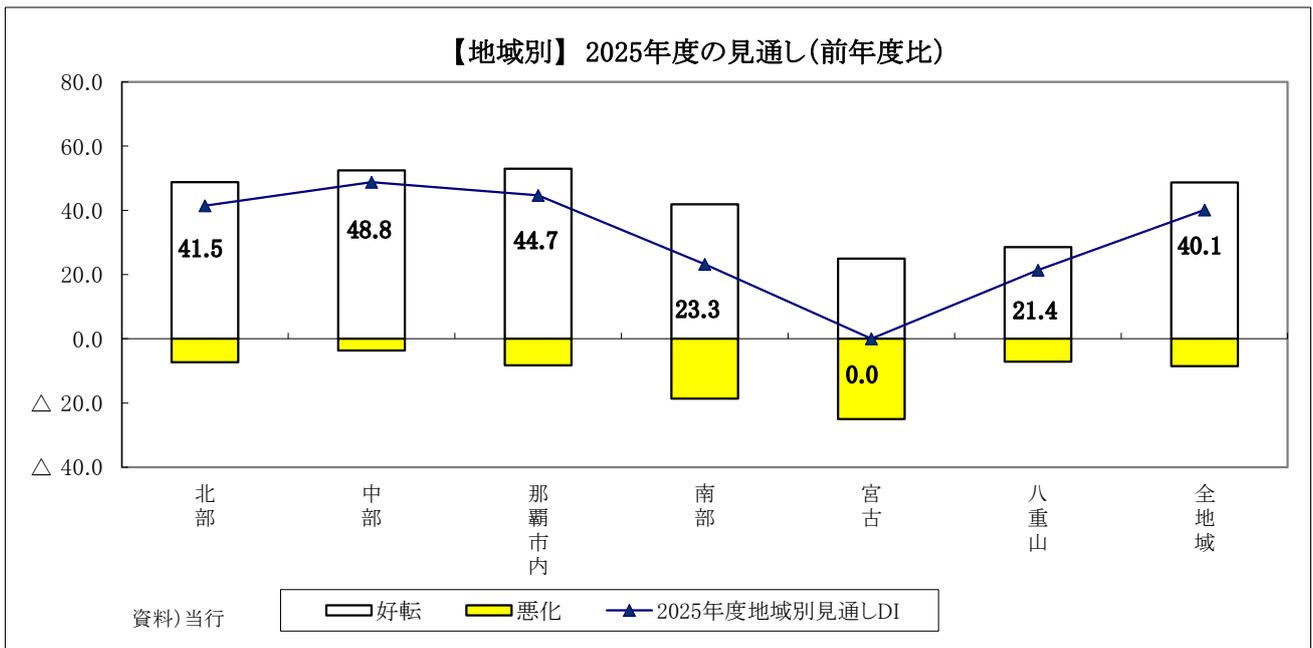
1. 業種別見通し

➤ 2025 年度見通し DI は全体で 40.1 となり、業況改善の動きが見込まれます。業種別見通しは【情報通信サービス業(83.3)】や【その他サービス業(宿泊、飲食等) (63.3)】、【小売業(62.5)】、【不動産業、物品賃貸業(58.3)】をはじめ、多くの業種において 2024 年度と比較して業況の改善が見込まれています。



2. 地域別見通し

➤ 2025 年度地域別見通しについて、中部(48.8)は不動産業において、好転を見込む事業者が多くポイントは高くなっています。北部(41.5)はテーマパーク開業予定があることから、好転を見込む事業者が多く、ポイントは高くなっています。



V. 経営上の課題

- DI 調査と合わせて、経営上の課題(3項目)について調査を行いました。全業種の結果は「売上・シェア拡大」が 19.1%と回答割合が最も高くなりました。次いで「原材料・仕入コスト上昇」の 11.1%、「従業員不足」の 11.0%、「人材育成・強化」の 10.5%、「人件費・光熱費・その他経費上昇」の 9.8%などと続いています。
- 業種別においては、「売上・シェア拡大」が多くの業種でトップとなっています。一方、土木業は「原材料・仕入コスト上昇」、建築業は「人材育成・強化」、医療・福祉は「人件費・光熱費・その他経費上昇」、運輸業・郵便業は「従業員不足」が選択されています。

全業種	1位		2位		3位		4位		5位	
	売上・シェア拡大	→	原材料・仕入コスト上昇	↑	従業員不足	↓	人材育成・強化	↑	人件費・光熱費・その他経費上昇	↓
製造業	1位		2位		3位		4位		4位	
	売上・シェア拡大	→	原材料・仕入コスト上昇	→	従業員不足	→	人件費・光熱費・その他経費上昇	↑	人材育成・強化	↑
土木業	1位		2位		2位		4位		4位	
	原材料・仕入コスト上昇	↑	技術者不足	↓	人材育成・強化	↑	売上・シェア拡大	↑	人件費・光熱費・その他経費上昇	→
建築業	1位		2位		3位		4位		5位	
	人材育成・強化	↑	技術者不足	↑	売上・シェア拡大	↓	従業員不足	↓	原材料・仕入コスト上昇	↓
卸売業	1位		2位		3位		4位		5位	
	売上・シェア拡大	↑	新製品・新サービス・新事業の開発	↑	人材育成・強化	↑	原材料・仕入コスト上昇	↓	人件費・光熱費・その他経費上昇	↓
小売業	1位		2位		2位		4位		5位	
	売上・シェア拡大	→	原材料・仕入コスト上昇	→	従業員不足	↑	人件費・光熱費・その他経費上昇	↓	品質向上(商品・サービス・技術)	↑
情報通信サービス業	1位		1位		3位		4位		4位	
	売上・シェア拡大	→	新製品・新サービス・新事業の開発	↑	品質向上(商品・サービス・技術)	↑	人材育成・強化	↑	余力資金・投資資金不足	↓
医療・福祉	1位		2位		2位		4位		5位	
	人件費・光熱費・その他経費上昇	↑	売上・シェア拡大	↑	従業員不足	→	人材育成・強化	→	IT・デジタル技術の活用	↑
その他サービス業(宿泊・飲食等)	1位		2位		3位		4位		5位	
	売上・シェア拡大	→	従業員不足	→	原材料・仕入コスト上昇	↑	人材育成・強化	→	品質向上(商品・サービス・技術)	↓
運輸業、郵便業	1位		2位		2位		4位		5位	
	従業員不足	→	人件費・光熱費・その他経費上昇	↑	売上・シェア拡大	↑	原材料・仕入コスト上昇	↑	財務体質強化	↓
不動産業、物品賃貸業	1位		2位		3位		4位		5位	
	売上・シェア拡大	→	余力資金・投資資金不足	↑	原材料・仕入コスト上昇	↓	品質向上(商品・サービス・技術)	↑	人件費・光熱費・その他経費上昇	↓
専門・技術サービス業、他	1位		2位		3位		3位		5位	
	売上・シェア拡大	→	技術者不足	↑	人材育成・強化	↑	従業員不足	↓	人件費・光熱費・その他経費上昇	↓

※矢印は、各業種における前年度のランキングと比較し、変動状況(上昇・同順位・下落)を示しています

IV. まとめ（総括）

➤ 【当期の業況DI】

当期(2025年1-3月期)の業況DIは**31.2**(前年同期比)と14期連続のプラスとなりました。項目別では、売上高や引き合いなどで業況改善がみられます。一方、仕入単価の上昇が続いており、採算についてポイントは低くなっています。雇用はマイナスであり、不足感がみられます。

業種別では、観光客の増加などにより【**その他サービス業(宿泊・飲食等)**】や【**建築業**】、【**卸売業**】など多くの業種で業況改善がみられます。一方、【**製造業**】は原材料費の高騰などで業況悪化がみられます。

➤ 【来期の見通し業況DI】

来期(2025年4-6期)の見通し業況DIは**30.9**(当期比)となりました。項目別では、売上高や引き合い、採算などで業況改善の動きが見込まれます。雇用においては不足感が続く見通しとなっています。

業種別では、全業種においてプラスとなっています。【**情報通信サービス業**】は受注単価の引き上げ予定などからポイントは高くなっています。【**小売業**】や【**運輸業、郵便業**】は観光客増加や売上単価の引き上げ予定などから、ポイントは高くなっています。

➤ 【2025年度の見通し業況DI】

2025年度業種別見通しは**40.1**となり、業況改善の動きが見込まれます。価格転嫁や人材不足の課題が続くと想定されるものの、観光需要の拡大などによる経済活動の活性化により、業況改善が見通しされています。